

人口の推移

宇部が市制・町村制施行に伴う1889(明治22)年の「明治の大合併」で上宇部、川上、小串、中宇部、沖宇部、宇部村となった当時は6560人。それから32年後の1

921年には4万人を突破して市制施行が実現するが、この間の伸び率は実に6.24倍という極端な増え方でした。沖ノ山をはじめ宇部の炭鉱が海底深く延び、生産量が増加するとともに人口も増えていきま

単独の村が一躍“市”になったのは6都市だけ!

- ①長崎県佐世保市【佐世保村から1902(明治35)年】
- ②山口県宇部市【宇部村から1921(大正10)年】
- ③長野県岡谷市【平野村から1936(昭和11)年】
- ④兵庫県芦屋市【精道村から1940(昭和15)年】
- ⑤沖縄県豊見城市【豊見城村から2002(平成14)年】
- ⑥岩手県滝沢市【滝沢村から2014(平成26)年】

宇部市誕生

1921年11月1日

厚狭郡宇部村が町村制を経て市制施行していきま

明治以降石炭産業が活発になり、厚狭郡宇部村の人口は急速に増加・発展が進行されました。

「投機熱が冷めてみれば、元の木阿弥たるを発見した年」



大正時代の炭鉱の坑道内での採炭風景(1923年5月発行の宇部市制記念写真帳から)

市制「逆風」不況下の船出

宇部が村から一躍市へと移行したのは、炭鉱を中心とした人口の急増に加えて経済的繁栄がありました。行政面でも予算規模は町村の中では

図抜けて大きく、市となる資格は十分でした。しかし1921(大正10)年の市制施行を前にして、第1次世界大戦に伴う戦争特需が消滅、炭鉱

業界はいわゆるパブル崩壊で厳しい経済状況に陥りました。そうした中で市の出となりま

現JR宇部線
宇部軽便鉄道全通
(宇部-小郡間) (1925年)

現JR小野田線
宇部電気鉄道開通
(宇部-小野田間) (1929年)

当時は発車ごとに満員になるほどし詰めの大盛況で、1日の平均利用者数は2000人を超えました。

米騒動とは

第1次世界大戦後の日本の対外政策としてのシベリア出兵などを契機に米価が急騰。米の値上げや買占めが広がる中で高山清治の買占め漁師の文相仕立が米問屋などを押し上げたのが米騒動の始まり。全国の農村や炭鉱場などで騒動が同時発生的に発生。1道3府37県の369万戸に及んだとされています。

市制「激震」未騒動

宇部の米騒動は富山の事件から1カ月後の8月16日の夜から18日朝まで3日間及びました。宇部では炭鉱労働者の賃上げ要求が端緒となり、交渉が決裂すると、沖ノ山や東見初炭鉱などが、炭夫約3000人が市街地に繰り出し、沖ノ山炭鉱頭取の渡辺祐策をはじめ炭鉱主の自宅や商店、遊郭などを襲撃、つるはしなどを手に破壊の限

りを尽くしました。当時は第1次世界大戦による戦争特需で日本の工業化が一気に進み、同時に、資本家と労働者との格差が拡大、労働者の不満が限界にまで膨らんでいました。そこに富山での騒動が引き金となり、一気に爆発したのが米騒動でした。



市制施行祝賀式の様子(大正12年5月1日)

UBE

100周年希望あふれる未来へ

宇部市制施行100周年記念誌



宇部市100年のあゆみ

宇部市を築き上げてきた理念「共存同栄・協同一致」の精神と「宇部方式」

宇部市民 誓文五則

皇恩ヲ厚キテ泰シ義勇奉公ノ誠ヲ致スベシ
固有ノ美風ヲ發揮シ共同一致ノ精神ヲ養クベシ
公徳ヲ守リ推譲ヲ重シ共存同栄ヲ實行シ以テ文化生活ヲ進メ大ニ社會奉仕ニ努ムベシ
世界ノ進運ニ鑒ミ鋭意内容ノ充實ヲ期シ本市ノ使命ヲ完フスベシ

一九二一年十一月一日、宇部市制施行時に発表された「宇部市民誓文五則」はその後の正式に「宇部市憲」となりました。この中の「共存同栄・協同一致」の言葉は「皆が心を一つにし、共に築いていこう」という意味で、今日の宇部市を築き上げた大切な理念です。この精神に基づき、

宇部市は市民と共に数々の苦難を乗り越えてきました。かつて石炭使用量の増加により発生した公害問題も、「宇部方式」といわれる独自の公害対策を積極的に展開し、克服しました。この「市民、企業、学識者、行政」が一体となった「宇部方式」は国際的にも高く評価されています。

「宇部市民誓文五則」当時の新聞より



市域の移り変わり

- 藤山村合併 <1931年8月1日>
- 厚南村合併 <1941年10月20日>
- 西岐波村合併 <1943年11月1日>
- 東岐波村、小野村、厚東村、二保瀬村合併 <1954年10月1日>
- 補町合併 <2004年11月1日>

宇部市章制定

1922年5月7日

宇部の「ウ」を上下に重ねて圖案化したもので、市制を施行したとき一般から募集した作品

歴代宇部市長

初代 国吉亮之輔	2代 林仙輔	3代 紀藤開之介
4代 国吉信義	7代 伊藤勤助	9代 西田文次
11代 三隅順輔	13代 星出壽雄	16代 西田竹一
17代 新田圭二	18代 二木秀夫	21代 中村勝人
23代 藤田忠夫	27代 久保田后子	30代 篠崎圭二